

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572307601		
法人名	有限会社キクチ縫製		
事業所名	グループホームけやき(A棟)		
所在地	秋田県南秋田郡八郎潟町夜叉袋字中羽立74—10		
自己評価作成日	平成30年2月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成30年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしさを大切に寄り添い支援する」を理念としています。  
 入居者様のご家族やご友人など今までのつながり、今までの生活習慣や生活へのご希望などに対し、理念に基づき職員一人一人が考え、臨機応変に出来る限り対応していけるよう、日々努力しています。又、暖かく家庭的な雰囲気も設立当初から大切にしてきたことの一つです。地域ボランティアや幼稚園などとの交流を行っており、皆様とても楽しみにされています。又、昨年は町で行う認知症カフェの企画に協力し、認知症カフェには入居者様も参加し、一緒に楽しむ事が出来ました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所には、勤続7年以上の職員が今年度まで5名、来年度まで合わせると計7名となり、各職員が商工会から表彰されている。1度辞めても再就職する職員も数名いたり、職員の休みも有休が取れるよう調整されているなど、働きやすい環境になるよう配慮、工夫がされている。避難訓練については年2回の他に、春と秋の町の防災訓練に合わせて行ったり、電気の外に水が使えなくなる停電を想定して年2回訓練を行うなど、事業所が自主的に回数を増やして訓練を行っている。事業所周辺には町役場、小学校、中学校、消防署、駅などがあり、運営推進会議でも毎回10名前後の参加があるなど、地域との協力関係が出来ている。また、代表者は他施設や役場職員と協力して企画し、町で認知症カフェを行ったりと地域に貢献している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしさを大切にし寄り添い支援する」を理念として掲げ、職員で共有し、実現に向け日々努力をしながら皆様と過ごしている	スタッフルームや交流スペースなどに、職員が模造紙に筆で大きく書いた事業所の理念や、年度の初めに各棟ごとに話し合って決めた目標がかかげられており、普段の業務の中で意識し取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様のADLの低下等により、以前より地域行事への参加の機会は減っているが、幼稚園、ボランティアとの交流、保育園の夏祭り、町で行った認知症カフェへの参加等、地域の皆様との交流を楽しむ事が出来た	普段から地域の方が、ボランティアで歌や踊りを披露してくれたり、夏祭りやクリスマス会に余興等披露してくれる方を呼び、賑やかな時間を過ごしている。また、代表者は他施設や役場職員と協力して企画し、町で認知症カフェを行ったりと地域貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	いつでも認知症の相談に乗れるよう見学や窓口を設けている 今年度は町で行う認知症カフェの企画等に協力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホーム内の現状報告を行い、たくさんの意見やアドバイスを頂いている 頂いたアドバイスを大切にサービスに活かしている	運営推進会議の出席者は多く、外部からは利用者家族、警察署、消防署、社会福祉協議会、包括支援センターの職員、地域の民生委員など十数名が集まり、活発に意見交換をしている。また認知症についての知識を広められるよう資料を配布したり、利用者の家族の体験談により認知症について、より詳しく知ってもらう機会になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居相談、空き情報等も地域と連絡を取りながら進めている	役場とは日頃から連絡を取り合っており、社会福祉協議会や包括支援センターには、空きが出た際なども併せて相談している。アドバイスをもらえたり事業所のことを理解してもらい、協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないようマニュアルがあり、職員も理解してケアを行っているが、新しく入社した職員もいるため今後研修を行う必要がある	認知症による行動で、他利用者とのトラブルに発展する可能性がある場合でも、入居されている全ての方が最善な状態で過ごせるように、職員で何度も話し合いで意見を出し合い実行している。そのため現在身体拘束の対象者はいない。また、身体拘束防止に向けて、身体拘束になるようなことをしていないかのチェック表を職員全員が行い、理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルがあり、職員も理解してケアを行っているが、新しく入社した職員もいるため今後研修を行う必要がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルは準備しているが、職員全員が理解し活用できるとは言えず、新しく入社した職員もいるため今後研修を行う必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている 解約に至る場合は嘱託医の説明と共に今後の対策も相談に乗っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはご家族と気軽に情報提供できる時間を持つようにしている 要望は申し送りで職員に伝わるようにしている	利用者からは日常の会話から意見を聞いている。家族へは面会時に状況を伝えて、意見をもらえるようにしている。また、請求書送付時に今月の行事や担当の職員から状況報告や連絡事項を記載された事業所だよりの他、1週間に1枚ずつ、利用者ごとの写真を撮り、一緒に送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、月1回の職員会議で話し合っている	職員の勤務時間が長くなってしまふことを防ぐため、その時に入居されている利用者に合わせて職員で業務改善に向け、話し合いをし業務マニュアルを見直している。また、毎月職員の休み希望と有休の希望を聞いて勤務調整しており、リフレッシュしやすい環境である。また、1度辞めた職員数名が、再度働いていたり、勤続7年以上の職員が今年度まで計5名おり商工会から表彰されるなど、働きやすい環境になるよう配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇をとれるようにし、極力時間外労働をしないように努めている 又、資格取得等の意志がある職員には研修時の勤務の調整等を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	いつでも勉強できるよう参考書等を準備している 施設外研修で学んだ内容は、施設内研修で内容を全員が把握できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	男鹿潟上南秋グループホーム連絡会で行う研修会に参加し交流を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用して頂く前に事前面談を行い要望を確認している また見学等で施設内の様子を見ることが可能		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族もいつでも見学や相談に乗れる体制になっている		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人を尊重し共に支え合う暮らしを大切にしている ホームの理念でもある		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月次報告書等で日々の状況を伝え、ご家族と一緒に支援していけるように努めている		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべくご本人の馴染みの関係がとぎれないよう、ご友人や親せきの方などの面会も、出来る限り支援している	以前からの行きつけの美容院へ行ったり、友人の面会やイベントなど、友人と一緒に出かけたりする方もいる。また、ミシンで縫ったり編み物をしたりと、馴染みのことが続けられるよう支援している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるような支援に努めている	ご本人の状態によっては難しいこともあるが、利用者同士が出来る限り関わり合い、支えあえるような関係を築けるよう、支援に努めている		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院継続の場合、他施設へ移動した場合はサービスが終了していても、できる限り面会に出かけるように努めている 退所時は今後の相談に応じている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話、ご家族、ご友人からなるべく情報を集め支援に活かせるよう努めている	うまく話せない方へは、本人に不快なことはないかを常に考えて接している。利用者からは、入浴時や夜間帯など、職員と1対1になった時に思いや意向を聞いている。また、聞いた情報は職員全員で共有し、その思いを叶えられるようにしている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族等から情報収集している ご友人の面会時にも情報を頂くようにしている また今まで関わっていたサービス事業者の方からも細かな情報を頂くようにしている		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回の職員会議、毎日のミーティング等ご本人の状態に合わせ、柔軟に対応するようにしている		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時などにご家族に現在の状態を伝え、要望などを確認し、職員会議やミーティングでの職員の意見、訪問診療時などの医師の意見等を参考に本人の状態にあった計画作成が出来るように努めている	利用者から日常で聞いたことと、家族からの面会時の情報、訪問診療の先生の意見、また、職員からは月に1回の会議の他、朝のミーティングや普段から聞いたことを介護計画に取り入れて作成している。また日誌は、介護計画に合わせて実行したことを番号で書くようにしており、普段から計画を意識して介護に携わったり、次の計画に活かせるようにしている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	基本的にケアプランに沿った記録ができるような日誌になっているが、状態の変化や細かな気づき等を記録して情報を共有し、計画の見直しに活かせるように努めている		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の希望を取り入れ出かける事ができるよう支援している(理美容院、買い物、外食等)		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に嘱託医と連携し希望に沿うよう確認をとっているので引き続きかかりつけ医にかかる事が可能	本人家族の希望するかかりつけ医を受診している。薬局も希望の薬局から調剤してもらっている。受診の付き添いは職員がほとんどだが、家族が付き添っている方もいる。訪問診療は、A棟B棟合わせて4回/月の訪問があり、歯科でも訪問してくれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいないがいつでも嘱託医、協力病院との連携が取れるようにしている		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず今後の治療方針を確認している 嘱託医のほうから事前に医療情報が提供されている 入院日にはサマリーでも情報を提供している		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも説明するが状況に応じての対応方針をご家族と話し合う 嘱託医との相談、説明も合わせて行っている	入居時にも事業所では医療行為ができないことなどを伝えている。状況が変化した際に家族の意向を確認し、主治医に相談をし、どのように対応していくかを話し合っている。	開設から15年が経つ。看取りについて出来ることや出来ないことなど、看取りの指針について、職員を含めて具体的な部分まで話し合う機会を持つことで、家族の安心に繋げていけるよう期待します。
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、職員全員が不安なく対応できるかは課題 今後研修が必要と考えている		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルがあり避難訓練等でその都度確認しているが、職員全員が不安なく対応できるかは課題	消防署を呼んで年2回の避難訓練の他に、自主的に、春と秋の2回、町の防災訓練の時間に合わせて訓練したり、停電を想定しての訓練を年2回行っている。停電時は水が使えなくなるため、飲料水、その他の水も備えている。職員へはSNSを利用した連絡方法をとる、緊急時に素早い連絡ができるようにしている。消防署や代表者の自宅もすぐ近くにあり、いざというときに駆けつけられる環境である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を尊重し暖かな対応ができるよう心掛けている	理念の意味に含まれている一人ひとりを尊重して接するということを意識しながら利用者に接している。部屋でのおむつ交換時や、トイレ使用時のプライバシーにも配慮している。トイレでの失敗時の言葉掛けへの配慮や、本人にとって嫌なことは言わないなど普段から意識して取り組んでいる。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく自己決定できるようにしている 難しい場合は選択できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	すべてを優先する事は難しいがなるべくゆったりと個々のペースに沿うよう支援している		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の選択に任せているが場にそぐわない時や気温にそぐわない時はさりげなく支援している お誕生日や外出等そのシーンに応じて配慮している		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて無理なくできる範囲でお手伝いをして頂いている 食事やおやつ等作り方を職員が教わりながら一緒に行う事もある	献立は1週間ごとに職員が順番に考えている。食事係が先頭になり、行事食を考えたり、利用者皆で作ることができる季節に合わせたおやつを計画し実行している。利用者は食事の際のセッティングや、食器の下膳やテーブル拭きなど、出来ることをやれるよう支援している。楽しんでもらえるように時々外食にも出かけている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録している 食べられない物は代替、不足の場合はおやつ等で補食している 個々に合わせた食事形態にしている		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアもしくはうがいの声かけをしている 義歯は洗浄剤を使用している 自歯の方の口腔ケアが十分できているか不安がある		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄能力、パターンに応じた支援をしている ケア用品も時間帯や排泄量に合わせて対応するようにしている 状況に応じ、おむつをしていてもトイレでの排泄を支援している	リハビリパンツを使用されていたが綿パンツとパットに変わった方もいる。失禁のある方への声かけのタイミングを工夫したり、オムツ使用中の方でも身体能力を見ながら出来る限り、トイレで排泄してもらえるようにするなど、排泄の自立に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、食物繊維の摂取、運動、マッサージ等の対応をしている 個々に応じて実施している		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はこちらに合わせてもらっていることが多いが、時間帯や入浴方法等なるべく希望を取り入れたり、場合によりシャワー浴を行ったりしている	利用者の気分や体調に合わせて、入浴日や時間を変えている。体調不良等で入浴できない場合は清拭を行っている。入浴剤は希望に応じて使用している。洗身など出来ることは行ってもらいながら、一人で入ったり、職員と話をしながら入ったりと好みのスタイルで入浴している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度、湿度、明るさ、音等に配慮しながら巡視している 寝具の確認や眠れないときはおやつやホットミルクの提供もしている		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から頂いた個人個人の薬の説明書をファイルにし、いつでも確認できるようになっている また嘱託医やかかりつけ薬局とも連絡を取り、理解と確認に努めている		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なるべくみなさんと楽しく過ごせるよう、レクや行事、外出等を計画し参加を促している 趣味に関しても楽しめるよう支援している		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく希望に沿うようにしている また可能であれば、ご家族やご友人にもご協力頂き外出できるように支援している	家族と家に帰ったり、春と秋に小旅行と題して動物園や博物館分館の旧奈良家住宅、また水族館など、利用者から出た行きたい場所へ出かけている。天候に合わせて日常の買い物にも職員と出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホーム内ではお金を持たないようにしているが、希望によりご家族と話し合い所持している方もいる 外出時など希望される方はお金を所持し、買い物ができるよう支援している		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望に沿って支援している		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度、光、音等の管理をしている 行事や手工芸には季節感あるものを取り入れている 季節の花を飾ったり、季節の話題で会話を楽しむなど季節を感じる事が出来るように努めている	ホールは家を広くしたような作りで、加湿器、除湿器を設置し、日中の日の当たりにも気を配り、カーテンで調節している。壁の随所にはデザイン性の優れた装飾があり、出来るところは利用者が作成し、窓からの景色以外でも季節を感じられる。掃除はほとんど職員が行っているが、出来る方にはモップなどで行ってもらっている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2棟をお互い自由に往復できるので気の合った方とお茶を飲んだり談話したりしている 限られたスペースではあるが、ソファを置いたりすることで思い思いに気に入った場所でくつろぐ様子が見られている		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険の無い範囲でなるべく馴染みのものを持ってきて下さるようお願いしている 以前ご自分が作成した手芸品を持ってきたり作品を飾っている方もいる	各居室には利用者に合わせて温度調整ができるよう、冷暖房のエアコンがついている。湿度が下がらないよう濡れタオルを下げている。自宅からテレビを持ち込んでくつろいで見ている方や、ミシンや編み物の道具を持ち込み、部屋で行っている方もいる。物が整頓され、清潔感のある居室である。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに飾りを付けるなど、わかりやすくする工夫をしたり、一人一人の状態に合わせて、声掛けや見守りを行っている		